

寄稿

医療・福祉現場で働く

聞こえない人たちの

声

-9-

本紙6月1日号に寄稿した武地蒼太です。脳神経外科を専門とする医師です。

冬は寒いため血圧が上がりがやすくなり、脳卒中が増えてきます。脳卒中とは、脳出血や脳梗塞など何らかの原因により脳血管が破綻し、突然意識障害や片麻痺、言語障害などの神経学的異常を来す状態です。脳卒中の早期発見と予防のためには、毎日の血圧測定と食事の減塩が大切になってきます。

“Time is Brain”^{時は脳を助ける}と言われるように、脳卒中が疑われたらすぐに病院に搬送され、迅速な医療が行われたいといけません。迅速な受診のために救急車を要請することがあります。きこえない人の中には電話で119番通報をすることが難しい方もいますが、その時

冬には万々に備え、脳卒中に気をつけよう

にはチャットとGPS位置情報を使用した「Net119緊急通報システム」やFAX119で通報できるように、予め登録をしておくなど備えましょう。

病院を受診する時や救急車に乗

る時は、自分の病歴（これまでに罹ったことがある病気がわかるもの）やお薬手帳、内服薬を必ず持参してください。医師は必ずこれらを確認した上で、診断や治療を行います。

きこえない人が脳卒中になった場合には、片麻痺や言語障害のために口話・手話・筆談で意思表示ができなくなってしまう可能性があります。様々な医療的処置が必要になった場合、本来は、患者本人の同意が必要になりますが、患者本人の意思を確認することができない時は、家族に説明し、同意を得ることになります。そのため、医師がすぐに家族と連絡が取れるように、連絡帳も持参できるようにしておいた方が良いでしょう。